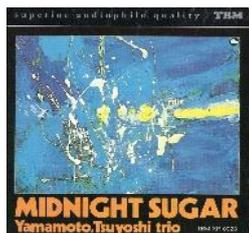


“色々なジャズ・サウンドを聴いてみよう”Vol.23

“スリー・ブラインド・マウス” CD より 2024.7.14 越川 健



1. I'M A FOOL TO WANT YOU (J.S.Herron) from MIDNIGHT SUGAR

山本 剛トリオ 7:19 1974年 26歳

(p) 山本 剛 (b) 藤井磯雄 (ds) 小原哲治

さび 寂しげで ^{はかな} 儂さを感じさせる(p)の粒立ち 一転サビからの小気味よい展開も聞きもの

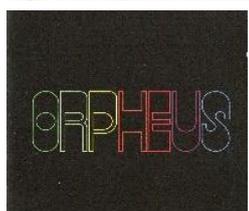


2. EVERY TIME WE SAY GOODBYE (C.Porter) from DAY DREAM

後藤芳子と水橋 孝 クインテット 5:25 1975年 42歳

(vo) 後藤芳子 (b)水橋 孝 (as) 大友義雄 (p)大口純一郎 (ds) 関根英雄

甘く切ない情感をたっぷりと歌い上げている バックも優しくサポートして心地よい



3. IN A SENTIMENTAL MOOD (D.ELLINGTON) from BLAK ORPHES

鈴木 勲トリオ 5:46 1976年 40歳

(b) 鈴木 勲 (ep) 山本 剛 (ds) Donald Bailey

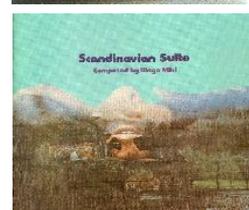
(b)が原メロを重厚に刻み (ep)が軽やかに受け止め (ds)のブラッシュワークが支える



4. COUNTRY SONG (Masaru Imada) from MASARU IMADA

(p) 今田 勝 5:20 1976年 43歳

(p)のトレモロは静けさから躍動へ 旋律は何か懐かしさを感じさせ日本の古謡を彷彿する



5. MIDNIGHT SUNRISE (Miki Bingo) from SCANDIVIA SUITE

高橋達也と東京ユニオン 7:14 1977年 45歳

(ts) 高橋達也 Composed by BINGO MIKI

「北欧組曲」より 哀愁をおびた(ts)の響きは美しい 三木の作変曲で邦題 “白夜の悲しみ”

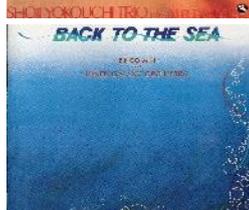


6. WILLOW WEEP FOR ME (Ann Timmons) from GREENSLEEVES

横内章次 トリオ 5:36 1978年 45歳

(g) 横内章次 (b) 稲葉国光 (or) 田代ユリ (ds) 石松 元

柔らかな(g)の響きを 優しく包み込む(or) ブルージーなムードで心地よく迫ってくる



7. WHEN WAVES SING (Miki Bingo) from DACK TO THE SEA

三木敏悟とインナ・ギャラクシー・オーケストラ 3:53 1978年 32歳

「海の誘い」より 三木の北欧を旅した情景が色濃く反映されている 邦題 “潮風に聞く”

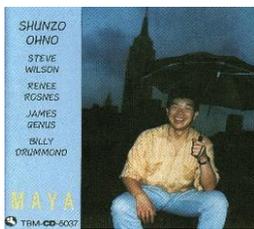


8. DUKE'S DAYS (Hidehiko Matumoto) from H. "SLEEPY"

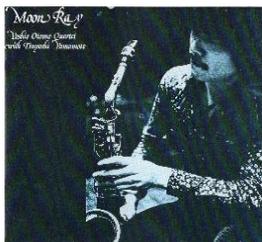
松本英彦 クインテット 6:53 1989年 63歳

(ts) 松本英彦 (p) 市川秀男 (b) 井野信義 (ds) 日野元彦

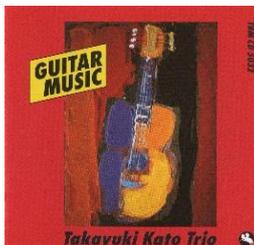
優れたバックのリズムセクションでコルトレーンを彷彿させる自作バラードが迫力満点!



9. MAYA (Shunzo Ohno) from MAYA
 大野俊三 クインテット 5:42 1991年 42歳
 (fgh)大野俊三(as) S. Wilson (p) R. Rosnes (b) J. Genu (ds) B.Drummond
 ソフトに歌い上げる(fgh) 信頼できる仲間をバックに従え堂々たる快走ぶりだ



10. IF I SHOULD LOSE YOU (Ralph Rainger) from MOON RAY
 大友義雄 クインテット 5:09 1988年 39歳
 (as) 大友義雄 (p) 山本 剛 (b) 川端民生 (ds) 倉田在秀
 山本剛のサイドメンを大友の(as)が速いテンポで快調に飛ばす泣きのサウンドは最高



11. WHAT WAS (Chick Corea) from GUITER MUSIC
 加藤宗之 トリオ 6:00 1989年 52歳
 (g) 加藤宗之 (b) 是安則克 (ds) 藤井信雄
 ガット弦の(g)クリアなアドリブはアコースティックで新感覚のジャズ・サウンドを醸し出している



12. BLALLAD FOR LEE (Haruki Sato) from PEGGY' BLUE SKYLIGHT
 山中良之 クインテット 6:33 1988年 35歳
 (g) 山中良之 (tb) 佐藤春樹 (p) 米田正義 (b) 永田利樹 (ds) 久米雅之
 ゆったりとした柔らかな(tb)に終始導かれ (g)も穏やかに受け止め まさにバラード



マイナーレーベルの名門TBM

1970年～80年代日本のジャズが熱かった頃、上記のロゴで<スリー・ブラインド・マイス>というジャズ専門のマイナーレーベルがあった。

TBMの愛称で知られ「楽しいジャズ」「スイングするジャズ」「創造的なジャズ」「個性的なジャズ」を四本柱に、メインストリーム系のモダン・ジャズからビッグ・バンド、ヴォーカル、フリー・ジャズ、フュージョンまで、幅広いカテゴリーを網羅。

今田勝、山本剛、鈴木勲、金井英人、向井滋春、三木敏悟、中本マリなど、主に20代のそれまであまりレコーディングの機会に恵まれなかったライブ・シーンの実力者たちを積極的に起用し、日本のジャズ界に新風を吹き込んだ。

その功績は彼らの現在に至るまでの活躍ぶりを見れば明らかである。

約130種の作品がリリースされ、我が社のLPに“駄作はない”と胸をはっていた。

驚異的なレベルの高さでオーディオ愛好家の中でも、TBMは大きな特質が魅力だった。

中古市場を探しとンデモない価格で取引がなされたこともあった。

過去に西ドイツで一部CD復刻化され逆輸入もあったが、それらも一時ですべて廃盤状態、近年では改めて紙ジャケットCDながら国内で期間限定の復刻シリーズで発売されたがこれも終売となってしまった。

ここで嬉しいことに再発売されることになった、2024年2月24日より第1期が発売。LP、SACD(ハイブリッド)また超高音質重量版「45回転/2LP」のこだわりで7千円のお値段! いずれも随時発売で和ジャズファンは大いに楽しみでもある。